

**令和 7 年度
研究評価結果報告書**

令和 8 年 3 月
山形県研究評価委員会

目次

本報告書のあらし	1
1 令和6年度完了課題の事後評価	
1-1 評価対象及び評価方法	1
1-2 事後評価の視点	2
1-3 事後評価結果	3
1-4 令和6年度優秀研究課題	3
1-5 第1回研究評価委員会(令和7年7月29日開催)における全体的意見	4
2 令和7年度若手チャレンジ課題の事前評価	
2-1 評価対象及び評価方法	5
2-2 事前評価の視点	5
2-3 事前評価結果	5
3 令和8年度実施課題の事前評価	
3-1 評価対象及び評価方法	6
3-2 事前評価の視点	7
3-3 事前評価結果	7
3-4 第2回研究評価委員会(令和7年11月20日、21日開催)における全体的意見	8
4 評価結果一覧	9
<参考資料> 山形県試験研究機関の概要	
1 試験研究機関の組織体制及び所在地	15
2 試験研究機関の業務概要	16
3 研究者の試験研究機関別人数	20
4 特許等知的財産権の取得状況	20
5 論文等の発表状況	21
6 公募型研究事業への対応と共同研究の実施状況	21

本報告書のあらまし

本報告書は、県試験研究機関が取り組む以下の試験研究課題について、山形県研究評価委員会が行った研究評価結果を取りまとめたものである。

○ 課題区分

- ・一般研究課題 : 県独自の事業として取り組んでいる試験研究課題
- ・公募型研究課題 : 公募により競争的外部資金を調達して取り組んでいる試験研究課題
- ・業務課題 : 県が経常的に取り組む、試験研究課題以外の課題や、外部の依頼により実施する課題
- ・若手チャレンジ課題: 40歳未満の研究員を対象にした県独自の試験研究課題

○ 本報告書で取りまとめた研究評価結果

1 令和6年度完了課題の事後評価

令和6年度末で事業が終了した一般研究課題、公募型研究課題、若手チャレンジ課題及び業務課題についての事後評価結果

2 令和7年度若手チャレンジ課題の事前評価

令和7年度若手チャレンジ研究事業(県独自事業)に応募のあった若手チャレンジ課題についての事前評価結果

3 令和8年度実施課題の事前評価

令和8年度当初予算により実施する一般研究課題及び業務課題についての事前評価結果

1 令和6年度完了課題の事後評価

1-1 評価対象及び評価方法

令和6年度で事業が終了した一般研究課題、公募型研究課題、若手チャレンジ課題及び業務課題の合計 46 課題について、書面による事後評価を行った。そのうち業務課題を除く研究課題 45 課題の上位 12 課題について、令和7年7月 29 日開催の第1回研究評価委員会において口頭発表を行った。

研究機関毎の評価課題数(令和6年度完了課題)

機関名	一般研究課題	公募型研究課題	業務課題	若手チャレンジ課題	計
環境科学研究センター	2 (1)	1		1	4
衛生研究所	3 (2)	1 (1)			4
工業技術センター	5 (2)	2 (2)			7
置賜試験場	2				2
庄内試験場	2 (1)				2
農業総合研究センター	2	1		1	4
園芸農業研究所	5 (1)	1		1	7
水田農業研究所	2				2
畜産研究所	3 (2)	1			4
水産研究所	1				1

※括弧内の数値は第1回研究評価委員会における口頭発表課題数(内数)

機関名	一般研究課題	公募型研究課題	業務課題	若手チャレンジ課題	計
内水面水産研究所				1	1
森林研究研修センター	1		1		2
村山総合支庁産地研究室	1				1
最上総合支庁産地研究室	1				1
置賜総合支庁産地研究室	2	1			3
庄内総合支庁産地研究室	1				1
合計	33 (9)	8 (3)	1	4	46

※括弧内の数値は第1回研究評価委員会における口頭発表課題数(内数)

1-2 事後評価の視点

評価の視点は次表のとおりである。

(1) 一般研究課題、公募型研究課題、若手チャレンジ課題

評価項目	評価の視点
目標の達成度	成果指標に対する達成度はどうか。 目標設定は振り返って適切であったか。 投入した研究経費に対し、十分な研究成果が得られたか。
計画・手法の妥当性	目標達成に向けた適正な進行管理がなされたか。 適切な研究手法が選択されていたか。 最適な努力が払われたか。 必要な外部との連携がなされたか。
科学的・技術的意義	科学的・技術的意義(新規性、独創性、優位性、先導性等)のある研究成果が得られたか。 成果の公表(学会発表、論文、特許出願、成果発表、又はそれらの準備)がなされているか。
成果の発展性	研究結果に展開可能性があるか。 研究成果の実用化や普及展開、波及効果が十分に期待できるか。

(2) 業務課題

評価項目	評価の視点
業務の達成度	目標どおり達成されているか。
業務の推進手法	効率的な体制で取り組んでいたか。 目標設定は適切であったか。 必要な機関等と連携して実施されたか。
業務の合目的性	目的に合致した業務内容であったか。
業務の発展性	今後、実績が生かされていく可能性はあるか。 新たな業務や研究に発展していく可能性があるか。

1-3 事後評価結果

概要は次表のとおりである。また、個別課題毎の評価については、4評価結果一覧(表1、2、P9～10)のとおりである。

(1) 一般研究課題、公募型研究課題、若手チャレンジ課題

評価結果		一般研究課題	公募型研究課題	若手チャレンジ課題
目標を大きく上回る成果を得ており、今後、成果の活用や研究の発展が大いに期待できる課題	A	5	2	
目標を上回る成果を得ており、今後、成果の活用や研究の発展が期待できる課題	B	4	1	
おおむね目標とした成果を得ており、今後の展開が求められる課題	C	24	5	4
目標とした成果を得ることができず、今後の展開については大幅な見直しが求められる課題	D			
計		33	8	4

(2) 業務課題

評価結果		業務課題
目標設定を大幅に上回る成果と認められた課題	A	
目標設定以上の成果と認められた課題	B	
目標どおりの妥当な成果と認められた課題	C	1
目標を下回る成果と認められた課題	D	
計		1

1-4 令和6年度優秀研究課題

書面による事後評価を行った研究課題 45 課題のうち上位 12 課題について口頭発表を行い、その評価の高かった4課題を優秀研究課題に選定した。

N o	区分	課題名 (研究期間)	機関名 (担当研究員)	研究の概要
1	一般	ヨウシュヤマゴボウに含有される毒性成分の分析法確立(R4～R6)	衛生研究所 (篠原秀幸 成田弥生)	ヨウシュヤマゴボウに含まれる毒性成分フィトラッカサポニン B、E および G を単離精製し、これらを標準品として機器分析法を確立し、理化学的な食中毒原因の特定を可能とした。
2	公募	山形県におけるエンテロウイルス D68 型の血清疫学(R6)	衛生研究所 (水田克巳)	新型コロナウイルスパンデミック対策が進む中で小児におけるエンテロウイルス D68 型(EV-D68)感染機会の減少があったものの、小児期に感染してほとんどの成人が中和抗体を保有している状況は、1970 年代から 2020 年代まで変わっていないことがわかった。

No	区分	課題名 (研究期間)	機関名 (担当研究員)	研究の概要
3	一般	サクランボらしさを追求したプレミアム天然素材開発と普及事業 (R3～R6)	工業技術センター 庄内試験場 (菅原哲也)	山形県産サクランボ果実の香味、代謝物を網羅的に解析し、新規な加工技術開発に結び付け、高品質な天然素材および天然香料等を創出した。サクランボの味を創り出す技術を開発し、多数の企業に技術移転して、新たな高付加価値サクランボ加工品群の商品化に繋げた。
4	一般	乳用種未経産牛 OPU 胚の効率的生産技術の開発 (R4～R6)	農業総合研究センター 畜産研究所 (渡部真理安)	乳用種未経産牛 OPU における効率的な胚生産のための培養液を開発した。成熟培養液の bOTM-1 [※] は、卵丘細胞の膨化面積を増加させ、媒精後の卵割率が高まり、胚発生効率を向上させた。発生培養液においては、N-1/N-2 [※] は、炎症マーカータンパク質 (GRP78) の発生が少なく、ダメージが少ない高品質な胚が作製できることが明らかとなり、KPD1/KP-D2 [※] は、胚日齢 7 日目の胚発生率が有意に高く、効率的な胚培養を可能とした。 [※] 機能性ペプチド研究所 (IFP) との共同開発

1-5 第1回研究評価委員会(令和7年7月29日開催)における全体的意見

(総評)

- ・全国展開や実用化・社会実装を意識した課題が多く、応用研究だけでなく基礎研究においても社会実装を念頭に置いた工夫がなされており、好印象だった。
- ・大学や企業と連携している課題が多く、素晴らしいと思う一方で、県の試験研究機関間の連携がもっとあっても良いと感じた。また、試験研究機関の範疇を超え、県の組織横断的な展開が求められている課題もあると思われた。

(指摘・助言)

- ・書類が分かりやすく記載されている課題が多く、以前より審査しやすくなってきたが、疑問点の多い課題や前の事業との繋がりが明確でない課題など、一部審査しにくい課題があるため、分かりやすい記載になるよう改善してほしい。
- ・県の試験研究機関の場合は実用化優先の面もあるが、国内外の学会に成果を発表し、実用面と学術面の両立を目指してほしい。
- ・昨今はデータを外注で手軽に取得できる反面、取得したデータをどのように活用するかが問題となる。その点でもう一步の工夫があると今後の展開が期待できると感じた課題がいくつかあったので、データ取得の際は今後の展開に繋がるよう意識してほしい。

2 令和7年度若手チャレンジ課題の事前評価

2-1 評価対象及び評価方法

令和7年度若手チャレンジ研究事業に応募のあった若手チャレンジ課題 8 課題(「分野融合または先導的分野」7 課題、「先端枠」1 課題)について、書面による事前評価を行った。

研究機関毎の事前評価課題数

研究機関名	若手チャレンジ課題
環境科学研究センター	1
衛生研究所	1
農業総合研究センター	3
水田農業研究所	1
庄内総合支庁産地研究室	1
森林研究研修センター	1
合計	8

2-2 事前評価の視点

評価の視点は次表のとおりである。

評価項目	評価の視点
研究目的の明確性	芽出し研究として目的が明確になっているか。 地域ニーズの把握が適切に行われているか。
研究の発展性	本芽出し研究後、研究としての発展性があるか。
成果波及の可能性	将来の実用化研究に向けた取組みとなる芽出し研究であるか。
研究手法の妥当性	芽出し研究として適切な研究手法が選択されているか。

2-3 事前評価結果

概要は次表のとおりである。また、個別課題毎の評価結果については、4評価結果一覧(表3、P10)のとおりである。

評価結果		課題数
研究計画が適切で、研究の展開が大いに期待される課題	A	
研究計画は概ね適切であり、研究の展開が期待される課題	B	1
研究計画は概ね適切であり、内容を精査することにより、研究の展開が期待される課題	C	7
研究計画の大幅な見直し求められる課題	D	
計		8

3 令和8年度実施課題の事前評価

3-1 評価対象及び評価方法

令和8年度当初予算により実施する一般研究課題 88 課題、業務課題 33 課題の合計 121 課題について、書面による事前評価を行った。そのうち、新規の一般研究課題のうち予算額 50 万円以上の課題及び所管課が推薦する課題の計 14 課題については、令和7年 11 月 20 日、21 日開催の第2回研究評価委員会において口頭発表を行った。

各研究機関の評価課題数(令和8年度当初予算実施予定課題)

研究機関名	一般研究 課題	業務課題	計
環境科学研究センター	1		1
衛生研究所	6 (1)	3	9
工業技術センター	15 (4)	8	23
置賜試験場	1 (1)		1
庄内試験場	2		2
農業総合研究センター	9 (1)	6	15
園芸農業研究所	16 (1)	3	19
水田農業研究所	6 (1)		6
畜産研究所	6 (2)	1	7
養豚研究所	3 (1)		3
水産研究所	4	3	7
内水面水産研究所	4	2	6
森林研究研修センター	4 (1)	6	10
村山総合支庁産地研究室	1	1	2
最上総合支庁産地研究室	4 (1)		4
置賜総合支庁産地研究室	3		3
庄内総合支庁産地研究室	3		3
合 計	88 (14)	33	121

※括弧内の数値は第2回研究評価委員会における口頭発表課題数(内数)

3-2 事前評価の視点

評価の視点は次表のとおりである。

(1) 一般研究課題

評価項目	評価の視点
目的の明確性	地域ニーズ、社会的要請や行政施策を踏まえ、試験研究の目的や目標を明確にするとともに成果を測る指標等を設定し、定量的に進捗管理できるようになっているか。
研究進度に応じた熟度	当該研究目標が目指すべき最終目標に対して、適切な段階の設定となっているか。当該研究の「研究段階に応じた知見」、「技術的課題」、「公募型研究プロジェクトなど連携・協働への展開可能性」などが明確になっているか。
成果波及の可能性	研究成果の活用及び実現可能性の検討・検証がなされ実用化への道筋が明確になっているか。
研究手法の妥当性	アドバイザー・ボード等からの助言指導を受けての対応や、その他研究手法が効率的なものとして組み立てられているか。

(2) 業務課題

評価項目	評価の視点
業務の合目的性	試験研究機関全体として期待される具体的な使命の中で、当該業務の位置づけや必要性が明らかにされているか。
業務の発展性及び戦略性	当該業務が担う役割や個々の試験研究との関連及びその有用性や発展性について検討されているか。 相談や検査・調査、普及、指導等の業務を新たな研究開発への展開や地域経済、県民生活に還元しようとしているか。
業務実施体制の適切性	当該業務の内容が、試験研究機関の担っている役割分担や能力に見合っているか、効率的な運営、適切な実施方法が検討されているか。

3-3 事前評価結果

概要は次表のとおりである。また、個別課題毎の評価結果については、4評価結果一覧(表4、表5、P11～14)のとおりである。

(1) 一般研究課題

評価結果	課題数	
研究計画が適切で、研究の展開が大いに期待される課題	A	1
研究計画は概ね適切であり、研究の展開が期待される課題	B	11
研究計画は概ね適切であり、内容を精査することにより、研究の展開が期待される課題	C	76
研究計画の大幅な見直しが求められる課題	D	
計		88

(2) 業務課題

評価結果		課題数
業務計画が適切であり、実施すべき課題	可	33
業務の内容や目標の設定など業務計画を見直した上で実施すべき課題	不可	
計		33

3-4 第2回研究評価委員会(令和7年11月20日、21日開催)における全体的意見

(総評)

- ・県の現状における問題点を踏まえて課題解決に向けたアプローチがなされている課題が多いと感じられた。また、全体的に以前より踏み込んだ研究が増えたような印象があった。
- ・大学等との連携により、高度な分析技術を使用している課題や、得られた結果を学会発表・論文化している課題もあり、学術的に高く評価できる。

(指摘・事業実施に向けた助言)

- ・新規課題においては、解決すべき課題は複数の原因から生じていることが多いので、解決に向けた優先順位を事前に整理し、課題が円滑に進行するよう心がけてほしい。
- ・資料では、研究テーマの選定理由、目標の設定理由やこれまでの研究の経過の有無が読み取れるような記載が必要である。
- ・基礎的な研究なのか、応用展開を目指す研究なのか分かりにくい課題があるため、目的及び立ち位置をはっきり記載してほしい。
- ・基礎的な研究に関してはすぐに実用化につながらなくとも学術的な成果が得られれば良い。一方、実用化させる研究は現場展開を目指すべきである。
- ・出口がやや甘い計画が見受けられるため、確実に成果を挙げられる部分、チャレンジする部分、思うようにいかなかった場合の代替案を記載することで、より納得感のある計画に仕上げしてほしい。
- ・マニュアルの作成では紙のマニュアルにはこだわらず、動画やAI等の活用も視野に入れ、現場の方が利用したくなるマニュアルを作成してほしい。

4 評価結果一覧

表1 令和6年度完了課題(一般研究課題、公募型研究課題、若手チャレンジ研究課題)事後評価

No	機関	課題区分	課題名	評価結果
1	環境科学 研究センター	一般	県内の揮発性有機化合物(VOC)の実態調査－VOC 濃度及び発生源寄与の解明－	C
2		一般	脱臭装置の排ガス洗浄水中のアンモニア処理への ANAMMOX 法の適用研究	B
3		公募	河川水における農薬類一斉分析法の開発	C
4		若手	CII: Clean aIr Index を活用した「日本一空気のきれいな山形県」に関する調査研究	C
5	衛生研究所	一般	感染症媒介蚊の生息状況と防除に関する研究	C
6		一般	ゲノム解析を用いた結核・非結核性抗酸菌症分子疫学調査	A
7		一般	ヨウシュヤマゴボウに含有される毒性成分の分析法確立	A
8		公募	山形県におけるエンテロウイルス D68型の血清疫学	B
9	工業技術センター	一般	やまがたオリジナル乳酸菌を活用した発酵イノベーションの創出	B
10		一般	混合発酵技術を用いた低アルコールワイン製造技術の開発	C
11		一般	新たな県産硬質米による“濃醇辛口酒”の開発	C
12		一般	次の一手を引き出す“山形版デザイン活用ハンドブック”の開発	B
13		一般	伝導イミュニティ試験における CDN 設計技術の確立	C
14		公募	早生樹等の国産未活用広葉樹材を家具・内装材として利用拡大するための技術開発	A
15		公募	高アスペクト比3次元ナノ・マイクロ構造体の製造技術によるバイオミメティクスシートの開発	A
16	(※) 工庄	一般	サクランボらしさを追求したプレミアム天然素材開発と普及事業	A
17		一般	食物繊維を高含有する県特産品を活用した高付加価値食品開発	C
18	(※) 工置	一般	IoT 用データベースの時系列処理技術の開発	C
19		一般	ポリイミド部材の 3D 造形技術の開発	C
20	研究センター 農業総合	一般	米粉パンの品質向上技術の開発	C
21		一般	温暖化等に対応した斑点米カメムシ類防除技術の開発	C
22		公募	大豆灌水支援システムに基づく灌水効果の現地実証	C
23		若手	果汁中の不純物除去による成分変化に着目したメタボローム解析	C
24	園芸農業研究所	一般	凍害に強いもも多主枝形仕立ての省力・安定生産技術の開発	C
25		一般	第8期西洋なしオリジナル優良品種の開発	C
26		一般	第2期DNAマーカー利用による果樹育種支援システムの開発	A
27		一般	ICTを活用したアルストロメリアの環境制御技術の開発	C
28		一般	元気創出！おうとうの新たな省力・安定生産技術の開発	C
29		公募	シャインマスカットの春節輸出向け防除暦の作成と長期貯蔵技術の開発	C
30		若手	挿し木発根性があり、花色が濃く、喬性な、サクラ属3倍体雑種の作出	C
31	(※) 水田研	一般	出穂前高温に対応した水稻の安定生産技術の確立	C
32		一般	第IV期地域特産型水稻品種の育成	C
33	研究 畜産 研究所	一般	自給飼料生産における牛糞堆肥施用による肥料費低減および飼料中カリウム濃度低減技術の実証	C
34		一般	乳用種未經産牛 OPU 胚の効率的生産技術の開発	A

No	機関	課題区分	課題名	評価結果
35	畜産研究所	一般	ICT機器を利用した乳牛の暑熱ストレスモニタリング技術の確立	B
36		公募	牛肉の「コク」に寄与する成分の解明と育種への展開	C
37	水研	一般	サクラマス等有用マス類における閉鎖循環式陸上養殖技術の開発	C
38	内研	若手	液化仕込み酒粕の給餌によるコイの付加価値向上	C
39	森研	一般	県内に成育している早生樹の木質バイオマス生産能力の実態解明	C
40	村産	一般	データ活用によるきゅうりのスマートグリーンハウス化技術の開発	C
41	最産	一般	多雪地域における水稻育苗ハウス等を活用したぶどうのコンテナ栽培技術の開発	C
42	置賜産地研究室	一般	えだまめの山形県版食味指標と品種・地域に合わせた栽培技術の確立	C
43		一般	担い手減少に対応した花きの省力・生産性向上技術の開発	C
44		公募	花き主要品目の日持ち保証販売に対応した品質保持体系の確立	C
45	庄産	一般	庄内砂丘地域に適したハウスアスパラガスの新栽培体系の確立	C

※工庄：工業技術センター庄内試験場、工置：工業技術センター置賜試験場、水田研：水田農業研究所、水研：水産研究所、内研：内水面水産研究所、森研：森林研究研修センター、村産：村山産地研究室、最産：最上産地研究室、庄産：庄内産地研究室

表2 令和6年度完了課題(業務課題)事後評価

No	機関	課題区分	課題名	評価結果
1	森研	業務	特用樹の成林条件の調査	C

※森研：森林研究研修センター

表3 令和7年度若手チャレンジ課題事前評価

No	試験研究機関	課題名	評価結果
1	環境科学研究センター	エアロゾル濃度推定数値アルゴリズムを用いた画像データによるPM2.5濃度推定	B
2	衛生研究所	ユウガオ食中毒を引き起こした化合物の究明	C
3	農業総合研究センター	水稻における高温・乾燥に対応したAM菌の活用技術	C
4	農業総合研究センター	果樹剪定枝の水稻育苗培土混和によるイネもみ枯細菌病の発病抑制効果	C
5	水田農業研究所	水稻乾田直播栽培における「脱プラ」施肥技術の検討	C
6	庄内産地研究室	さくらんぼ次世代選果機の精密選別による生産性向上	C
7	森林研究研修センター	庄内海岸の砂質土壌に生育しているスギの土壌条件の解明	C
8	農業総合研究センター(慶應先端研)	果汁中の不純物除去が果汁成分及び食味に与える影響の解明	C

※不採択となった課題含む、No. 8は「先端枠」該当

表4 令和8年度実施課題事前評価:一般研究課題

No	機関	課題名	評価結果
1	(※)環研	遺伝子解析による河川水中の大腸菌排出源調査	C
2	衛生研究所	県民の感染症情報ニーズ調査及び情報提供ツールの試行に関する研究	C
3		山形県内結核患者の罹患構造の追究(ゲノム解析を活用して)	B
4		コロナウイルスの疫学研究(ゲノム解析法の確立に向けて)	B
5		マリントキシン分析法に関する研究	C
6		ヒト生体試料を想定した自然毒一斉分析法の開発	B
7		定量 NMR 法を基盤とする迅速な自然毒分析法の開発	A
8		工業技術センター	樹脂替え、色替えにおける材料置換工程に関する研究
9	高圧水素用ステンレス鋼の機械加工技術の開発		C
10	アルミニウムの組織評価における研磨の迅速化に関する研究		C
11	超短パルスレーザーを用いた微細周期構造によるCBN 工具の高寿命化、及び応用技術の調査		C
12	県産副原料を用いたクラフトサケの開発		C
13	未利用果実残渣を活用した乳酸菌由来菌体外多糖生産システムの構築		C
14	高温障害米などの原料米品質に左右されない最適醸造条件の解明		C
15	山形県産広葉樹材の木製品向け機械加工・塗装技術の開発		C
16	ソフトロボットハンドの動作機構に関する調査研究		C
17	電源位置に制約されない雛形測定システムの構築		C
18	新規技術開発における最適解探索手法構築		C
19	散乱体を含む電磁波吸収複合樹脂材料の開発		C
20	次世代半導体およびデバイス材料の MEMS 加工プロセス開発		C
21	視覚的・構造的特徴を付与したニュートリショナルフードの開発		C
22	大気圧プラズマを活用した加工技術の開発		C
23	(※)工置	マニュアル作成ツールを用いた技術者育成の手法開発	C
24	(※)工庄	地域特産農産物の呈味性を再現したテイストパウダー開発	B
25		地域特産農産物を活用した色素素材の開発	C
26	農業総合研究センター	施肥技術構築等による有機野菜栽培技術の開発	C
27		水田の有機物利用と地力低下対策技術の開発	C
28		新たに侵入したクモヘリカメムシの発生実態緊急調査	C
29		温暖化等に対応した水稻主要病害の化学農薬低減防除技術の開発	C
30		常温流通を可能にするさつまいもペースト加工技術の開発	C
31		おうとうの冷凍保存技術の開発	C
32		大規模経営体の収益性を高める作業技術体系の確立	C
33		水稻作におけるセンシングを活用したデータ駆動型生育管理技術の開発	B
34		えだまめ冷凍生莢の青臭み低減技術の開発	C
35	園芸農業研究所	長期化する西洋なしのシンクイムシ類被害に対する新たな効果的・効率的な防除技術の確立	C
36		第9期西洋なしオリジナル優良品種の開発	C

No	機関	課題名	評価結果
37	園芸農業研究所	第2期ぶどうオリジナル優良品種の開発	B
38		第6期おうとう新品種の開発	B
39		ゲノム情報利用による果樹育種支援システムの開発	C
40		高度環境制御技術を用いたトマト超多収生産技術の開発	C
41		異常高温に対応した夏すいかの安定生産技術の確立	C
42		ばら栽培施設を用いたダリア周年養液栽培体系の確立	C
43		アルストロメリアの複合環境制御と地中加温を組み合わせた高効率生産技術の開発	C
44		おうとう新品種「山形C12号」の貯蔵技術(短期～長期)の開発	C
45		第4期4L生産を目指した超大玉おうとう品種の開発	B
46		おうとう新品種「山形C12号」の生産性低下要因の解明及び対応技術の開発	C
47		常態化する危機的高温環境に対応した新たなおうとう栽培方法の確立	C
48		効率的な生産を可能にする西洋なし新樹形の栽培技術の開発	C
49		生産性・安全性を向上させた新たなりんごわい化栽培技術の開発	C
50		異常高温に対応したぶどうの着色向上技術の開発	C
51	水田農業研究所	高温条件に対応した水稲安定生産技術の開発	C
52		第Ⅶ期水稲主力品種の育成	C
53		第Ⅴ期地域特産型水稲品種の育成	C
54		第Ⅲ期イネゲノム情報を用いた新育種選抜システムの構築	B
55		「雪若丸」の普及拡大を支える安定生産技術の開発	C
56		水稲新品種「ゆきまんてん」の低コスト・安定生産技術の確立	C
57	畜産研究所	黒毛和種の受胎率を高める胚培養液を利用した胚移植方法の確立	C
58		県内食品副産物の新たな飼料調製技術の開発	C
59		遠隔地における乳用種未經産牛の OPU 卵子輸送液の開発	C
60		水稲乾田直播導入圃場における自給飼料生産体系の確立	C
61		受胎率の高い凍結受精卵の選抜手法の開発	C
62		夏季繁殖成績を向上させる牛群検定を活用した ET レシピエント牛の選定技術の確立	C
63	養豚研究所	プロバイオティクスを活用した腸内環境改善による肉用豚の生産性向上技術の検討	C
64		地域飼料資源の社会実装を目指した給与飼料の開発	C
65		繁殖母豚の省力・低コストなクール技術の開発	C
66	水産研究所	ナマコの標識方法と資源増殖技術の開発	C
67		アカムツ(ノドグロ)稚魚の新しい生産技術開発	B
68		「冷やし」に特化した鮮度保持技術の開発	B
69		暖海性魚種を対象とする新漁業技術開発	C
70	内水面水産研究所	河川中流域の栄養塩濃度がアユに及ぼす影響の評価	C
71		県産飼料用米を用いた高脂質コイの安定生産とブランド化に向けた高付加価値化に関する技術開発	C
72		サクラマス河川内環境収容力による適正放流数の推定	C
73		県産ワカサギの採卵及び放流技術開発	C

No	機関	課題名	評価結果
74	森林研究 研修センター	庄内海岸クロマツ林(耕地防風林)の樹種転換技術の開発	C
75		山菜(ワラビ・ネマガリタケ)の鮮度保持技術の開発	C
76		生産現場に適したキノコ系統選抜	C
77		ユリノキ等の早生樹における造林初期の成育特性の解明	C
78	(※)村産	ミニセルリー「若竹」の低コスト・安定生産技術の確立	C
79	最上産地 研究室	生産性の高いたらのきオリジナル新品種の開発	C
80		高温環境に対応したトマトの夏秋季安定生産技術の確立	C
81		にらの夏播き越冬苗を用いた効率的栽培体系の確立	C
82		日本一たらの芽産地のV字回復に向けた技術確立	C
83	置賜産地 研究室	花きの省力・低コスト化を実現する生産性向上技術の開発	C
84		気候変動に対応したオカヒジキ安定生産技術の確立	C
85		アスパラガスの春期収量向上技術の開発	C
86	庄内産地 研究室	いちご高温耐性品種「山形 S7 号」を活用した安定生産技術の確立	C
87		良食味えだまめの生産・鮮度保持及び気候変動対応技術の確立	C
88		庄内ハウスアスパラガスにおける春期及び夏期収量確保技術の確立	C

※環研：環境科学研究センター、工置：工業技術センター置賜試験場、
工庄：工業技術センター庄内試験場、村産：村山産地研究室

表5 令和8年度実施課題事前評価：業務課題

No	機関	課題名	評価結果
1	衛生 研究所	食品に残留する農薬等の成分である物質の試験法開発・検証業務	可
2		衛生研究所研修費	可
3		衛生研究所設備整備費	可
4	工業技術 センター	企画情報事業	可
5		高度技術者育成支援事業	可
6		施設・試験研究機器保守検定事業	可
7		ものづくり製品化支援事業	可
8		ものづくり企業訪問事業	可
9		指導試験事業	可
10		デザイン振興事業	可
11		委託分析試験事業	可
12	農業総合 研究センター	農作物作柄診断解析調査	可
13		農産物加工開発技術指導	可
14		水稻・畑作物奨励品種決定調査	可
15		新農薬(殺虫剤・殺菌剤)の効果と使用法試験	可
16		新除草剤及び新植物調節剤に関する試験	可
17		新肥料及び新資材に関する試験	可

No	機関	課題名	評価結果
18	園芸農業 研究所	温暖化に対応した果樹・野菜・牧草の適応性調査	可
19		園芸作物奨励品種決定調査	可
20		特産園芸作物の原種苗供給	可
21	(※)畜研	飼料作物優良品種選定調査	可
22	水産 研究所	サケ・サクラマス資源調査	可
23		庄内浜の漁業活性化対策調査	可
24		海面増養殖技術指導	可
25	(※)内水研	内水面重要魚種（アユ・サクラマス）の資源動向及び河川環境モニタリング	可
26		内水面増養殖技術指導	可
27	森林研究 研修センター	獣害忌避剤の適用拡大に向けた基礎試験	可
28		休耕田を活用した造林苗木の育成技術の開発	可
29		代替肉原料のための効率的なキノコ菌糸体培養技術の確立	可
30		森林情報のデジタル化調査	可
31		被害拡大防止に向けた森林病虫獣害調査	可
32		県産広葉樹材の流通拡大に向けた生産システム調査	可
33	(※)産地	地域園芸産地技術支援事業	可

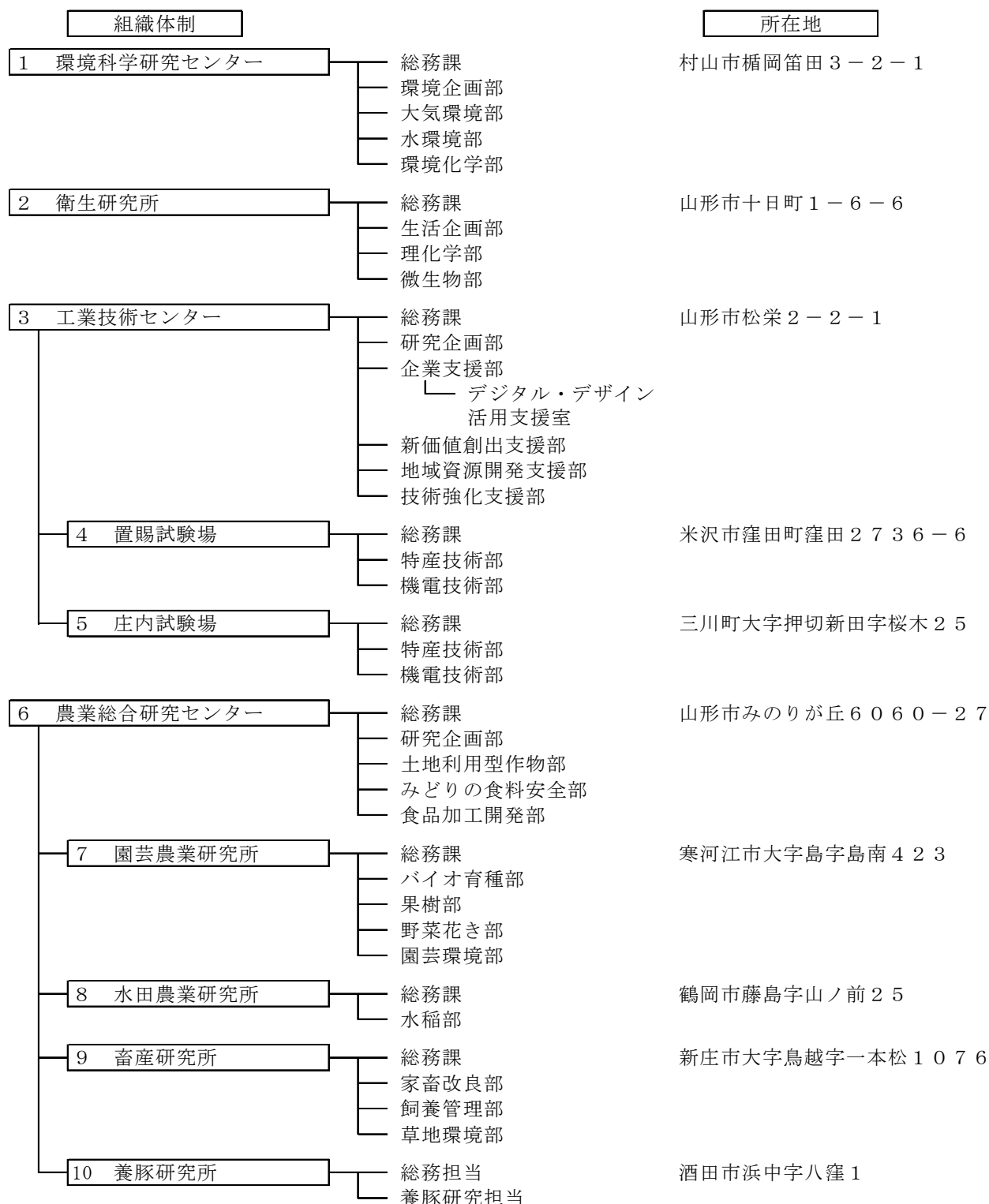
※畜研：畜産研究所、産地：各産地研究室、内水研：内水面水産研究所

<参考資料>

山形県試験研究機関の概要

1 試験研究機関の組織体制及び所在地

1 試験研究機関の組織体制及び所在地



組織体制		所在地
11 水産研究所	<ul style="list-style-type: none"> — 総務課 — スマート漁業推進部 — 資源利用部 — 浅海増殖部 	鶴岡市加茂字大崩 5 9 4
12 内水面水産研究所	<ul style="list-style-type: none"> — 庶務係 — 内水面水産振興部 	米沢市泉町 1 - 4 - 1 2
13 森林研究研修センター	<ul style="list-style-type: none"> — 総務課 — 研究企画部 — 森林生態保全部 — 森林資源利用部 — 森林経営指導部 	寒河江市大字寒河江丙 2 7 0 7
1 村山総合支庁 産地研究室	<ul style="list-style-type: none"> — 庶務係 — 園芸研究担当 	寒河江市大字島字島南 4 2 3
2 最上総合支庁 産地研究室	<ul style="list-style-type: none"> — 庶務担当 — 園芸研究担当 	新庄市大字角沢字駒場 1 3 6 6
3 置賜総合支庁 産地研究室	<ul style="list-style-type: none"> — 庶務担当 — 園芸研究担当 	南陽市宮内 2 0 9 0
4 庄内総合支庁 産地研究室	<ul style="list-style-type: none"> — 庶務係 — 園芸研究担当 	酒田市浜中字八窪 1

2 試験研究機関の業務概要

機関名・セクション	業 務 概 要
環境科学研究センター 総務課 環境企画部 大気環境部 水環境部 環境化学部	[所管:環境企画課] 環境学習の支援、環境情報の提供、自然環境モニタリング調査、気候変動適応センターの運営等 大気汚染、騒音、酸性雨等の調査、監視、研究、技術指導等 水質汚濁、地下水・土壌汚染、廃棄物等の調査、監視、研究、技術指導等 ダイオキシン類・放射性物質の調査・監視、化学物質の調査、研究、技術指導等
衛生研究所 総務課 生活企画部 理化学部	[所管:健康福祉企画課] 医薬品・家庭用品の検査、感染症発生動向調査、蚊媒介感染症対策、花粉症予防対策、公衆衛生情報の収集・解析・提供、感染症情報センター等 食品・農産物中の残留農薬・有害物質検査、農薬・自然毒等に係る緊急検査、環境放射能水準調査、放射性物質検査、事業所排水分析

機関名・セクション	業 務 概 要
微生物部	県内感染症等防疫業務、微生物学的検査、血清学的検査
工業技術センター 総務課 研究企画部 企業支援部 デジタル・デザイン 活用支援室 新価値創出支援部 地域資源開発支援部 技術強化支援部	[所管：産業技術イノベーション課] 研究企画調整（研究管理・評価、研究予算）、知財管理、共同研究、広報 技術相談等の企業支援窓口、外部支援機関連携、企業情報分析活用 デジタル技術活用支援、電力測定、生産性向上・スマート化支援、デザイン思考・経営の普及、商品企画支援、デザイン振興事業（エクセレントデザインの運営） 環境調和型ものづくり、プラスチック材料・成形技術、水素関連材料・加工技術、半導体技術・MEMS技術 食品、飲料、清酒、ワイン、バイオ、木材、繊維、ニット 精密測定試験、強度試験、非破壊試験、顕微鏡試験、環境試験、化学分析、機器分析、工業材料試験、電磁両立性計測（EMC）
工業技術センター 置賜試験場 総務課 特産技術部 機電技術部	[所管：産業技術イノベーション課] 織物・染色・整理加工、化学 機械、金属、電子
工業技術センター 庄内試験場 総務課 特産技術部 機電技術部	[所管：産業技術イノベーション課] 食品試験・分析・加工、木材加工 機械、金属、電子、化学
農業総合研究センター 総務課 研究企画部 土地利用型作物部 みどりの食料安全部	[所管：農業技術環境課] 研究課題の設定・事業化調整、産学官連携等共同研究の推進、研究成果の普及広報、知的財産権の管理調整 水稲・畑作物の栽培管理技術の開発、原原種等種子生産業務、優良品種の選定 環境保全型農業技術の開発、病虫害防除技術の開発、土壌肥料に関する研究

機関名・セクション	業 務 概 要
食品加工開発部	県産農産物を活用した食品加工技術の開発、食品加工に関する技術指導
農業総合研究センター 園芸農業研究所 総務課 バイオ育種部 果樹部 野菜花き部 園芸環境部	[所管：農業技術環境課] 園芸作物新品種の開発、バイオテクノロジーに関する研究 果樹の栽培管理技術の開発 野菜及び花きの栽培管理技術の開発 園芸作物病虫害防除技術の開発、土壌肥料に関する研究
農業総合研究センター 水田農業研究所 総務課 水稲部	[所管：農業技術環境課] 水稲新品種の開発、水稲の栽培管理技術の開発
農業総合研究センター 畜産研究所 総務課 家畜改良部 飼養管理部 草地環境部	[所管：畜産振興課] 県産種雄牛の作出、牛肉の付加価値向上に向けた技術開発 乳牛・鶏の飼養管理技術、先進的な胚生産技術の開発 飼料生産利用技術、環境負荷軽減技術の開発
農業総合研究センター 養豚研究所 総務担当 養豚研究担当	[所管：畜産振興課] 豚の改良増殖、飼養管理技術の開発
水産研究所 総務課 スマート漁業推進部 資源利用部 浅海増殖部	[所管：水産振興課] 漁海況情報提供、資源評価・管理技術、漁場開発及び新資源に関する調査研究、漁業活性化対策、スマート漁業の推進支援 水産物の品質向上に関する技術開発、品質評価に関する研究、利用・加工支援 増養殖技術指導、増殖・種苗生産、磯根資源・藻場に関する調査研究、養殖に関する研究

機関名・セクション	業 務 概 要
内水面水産研究所 庶務係 内水面水産振興部	[所管：水産振興課] 生産技術、増養殖技術、漁場環境保全、魚類防疫対策、外来魚管理対策等
森林研究研修センター 総務課 研究企画部 森林生態保全部 森林資源利用部 森林経営指導部	[所管：森林ノミクス推進課] 試験研究の企画、予算の調整、研究情報の集約・調整等 森林の育成、病虫獣害防除に関する試験研究・調査等の実施 県産木材の利用拡大、特用林産物の栽培・増殖、材木育種等に関する試験研究・調査等の実施 森林・林業技術の普及、森林技術職員等の人材育成、各種研修等の実施

機関名・セクション	業 務 概 要
村山総合支庁産業経済部 農業技術普及課産地研究室 庶務係 園芸研究担当	[所管：村山総合支庁産業経済部農業技術普及課] 村山地域の園芸産地化支援技術の開発等
最上総合支庁産業経済部 農業技術普及課産地研究室 庶務担当 園芸研究担当	[所管：最上総合支庁産業経済部農業技術普及課] 最上地域の園芸振興を支援するための産地技術の「開発」と「組み立て・実証」、中山間地域の栽培条件に適応した栽培技術の開発
置賜総合支庁産業経済部 農業技術普及課産地研究室 庶務担当 園芸研究担当	[所管：置賜総合支庁産業経済部農業技術普及課] 置賜地域の園芸産地化を支援する技術の開発
庄内総合支庁産業経済部 農業技術普及課産地研究室 庶務係 園芸研究担当	[所管：庄内総合支庁産業経済部農業技術普及課] 庄内地域の園芸産地化支援技術の開発

3 研究者の試験研究機関別人数

(人)

機関名	研究 職員数	うち 40歳未満
環境科学研究センター	18	7
衛生研究所	22	10
工業技術センター	61	18
置賜試験場	9	3
庄内試験場	11	5
農業総合研究センター	26	15
園芸農業研究所	27	13
水田農業研究所	11	7
畜産研究所	15	6
養豚研究所	4	2
水産研究所	9	4
内水面水産研究所	7	4
森林研究研修センター	8	3
村山総合支庁産地研究室	7	3
最上総合支庁産地研究室	7	5
置賜総合支庁産地研究室	5	2
庄内総合支庁産地研究室	7	4
合計(実人数)	247	108

※令和7年4月1日現在、

村山総合支庁産地研究室所属研究員は園芸農業研究所研究員を兼務

4 特許等知的財産権の取得状況

(件)

機関名	特許等		品種登録	
	保有 件数	出願中 件数	保有 件数	出願中 件数
工業技術センター	26	5		
置賜試験場				
庄内試験場				
農業総合研究センター	3	1	1	
園芸農業研究所			10	1
水田農業研究所			10	2
畜産研究所	3			
最上総合支庁産地研究室			2	
庄内総合支庁産地研究室			2	1
合計	32	6	25	4

※令和7年4月1日現在

5 論文等の発表状況

(件)

機関名	投稿論文 (査読)件数	学会発表 件数
環境科学研究センター		4
衛生研究所	7	17
工業技術センター	3	14
置賜試験場		3
庄内試験場	1	6
農業総合研究センター	6	9
園芸農業研究所	1	10
水田農業研究所	3	2
畜産研究所	1	1
水産研究所		4
森林研究研修センター	1	9
置賜総合支庁産地研究室		1
庄内総合支庁産地研究室	1	
合 計	24	80

※令和6年度実績

6 公募型研究事業への対応と共同研究の実施状況

(件)

機関名	公募型研究事業実施件数			共同研究 実施件数
	新規	継続		
環境科学研究センター				5
衛生研究所	1(1)		1	14
工業技術センター	1(2)	5	6	19
置賜試験場	1(1)		1	3
庄内試験場				7
農業総合研究センター	1(1)	2	3	1
園芸農業研究所	1(1)	4	5	
水田農業研究所	1(2)	1	2	4
畜産研究所	2(2)	4	6	
養豚研究所		1	1	
水産研究所	1(1)	1	2	
内水面水産研究所		1	1	
森林研究研修センター	0(2)			

※令和7年度実施課題に関するもの、括弧内の数値は応募課題数、
共同研究は一般研究課題・公募型研究課題・業務課題を除く

機関名	公募型研究事業実施件数			共同研究 実施件数
	新規	継続		
置賜総合支庁産地研究室	2(2)		2	
庄内総合支庁産地研究室	1(1)		1	
合 計	12(16)	19	31	53

※令和7年度実施課題に関するもの、括弧内の数値は応募課題数、
共同研究は一般研究課題・公募型研究課題・業務課題を除く